

■ 心理社会学部

一 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

心理社会学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。学部での学びをもとに今日的課題に主体的な態度で向き合い、互いの個性や多様な価値観を尊重しながら、他者と協働して解決することのできる能力・資質を備えた学生に学位を授与します。

一 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。

心理社会学部においては、各専門分野の知識・技能を身につけ、自らの問いを立てながら生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、研究法、実験法などの方法論と実習、少人数の基礎ゼミナール、専門ゼミナールを軸としたカリキュラムを編成しています。

一 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。

心理社会学部においては、高等学校卒業相当の知識と技能を有し、自らの体験を自分の言葉で筋道立てて考え表現する力を持つとともに、新たな知識や他者の価値観に対して開かれた姿勢で向き合い、関心を持つことのできる資質・能力を備えた学生を求めます。

■ 人間科学科

一 ディプロマ・ポリシー (DP)

人間科学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人間科学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

| | |
|-----------------|--|
| 知識・技能 | ① 「Life (人びとの人生・生活)」に関して社会学・心理学及び身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。 ② 人間科学に関する実験・調査・観察などの技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。 |
| 思考・判断・表現 | ③ 「Life」について複眼的に思考し、それに基づいて判断できる。 ④ 根拠に基づいて論理的に表現することができる。 ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。 |
| 関心・意欲・態度 | ⑥ 「Life」に関する多様な課題に関心を抱き、自ら調査・分析し、解決しようとする意欲を有している。 ⑦ 今日的な課題に対して、時流にとらわれることなく、主体的な態度で向き合うとともに、他者と協働して解決しようとする姿勢を身につけている。 |

一 カリキュラム・ポリシー (CP)

人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

| | |
|-------------|---|
| 教育内容 | ① 基礎部門：人間科学を体系的に学んでいくための基礎的な科目により構成されています。「人間科学の基礎」では、人間を科学する上での基礎を学びます。「基礎ゼミナール」では、「Life」を複眼的に考察する人間科学の現代社会におけるテーマを題材とし、「読む」「書く」「聴く」「話す」基礎技能を修得し、根拠に基づいて論理的に表現できる能力を育みます。心理学・社会学・身体科学について、それぞれの入門段階の基礎知識を修得するための科目を配置しています。 ② 研究法部門：「Life」を複眼的に理解するために、社会学・心理学及び身体科学の研究法を専門的に学び、実験・調査を通して科学的な手法に基づいた調査研究が実施できる技能を修得します。研究法を理解し、実践するために、各学術分野の統計学、研究法、実験・調査を系統的に学ぶことによって、仮説を立て、データを収集し、実証する技能を養います。心理学における科目群は認定心理士取得の主要科目となり、社会学における科目群は社会調査士の主要科目としても位置づけられます。 |
|-------------|---|

| | |
|-------------|---|
| | <p>③ 専門部門：「人間発達科目」「現代社会生活科目」「特別研究」「演習科目」から構成されています。「人間発達科目」「現代社会生活科目」では人間が受胎してから死に至るまでの変化について、あるいは現代社会における様々なテーマについて、社会学・心理学及び身体科学から領域横断的に学ぶことにより、その有り様を理解できるようになります。「特別研究」では、心理学・社会学における最新の海外の学術研究の原書講読を通して、先行研究を批判的に読み、新たな研究を行うための基礎を養います。「演習科目」では、人間科学における実証的な研究を行うために必要な論文講読をした上で、「Life」に関する課題に対して、仮説設定、データ収集、量的・質的な分析、考察という科学的な研究を学生が主体的に行うことにより、学術研究の基礎技法を修得します。</p> <p>④ 基礎部門、専門部門における所定の科目を履修することにより、社会調査士、認定心理士、認定心理士（心理調査）の資格を取得することができます。</p> <p>⑤ 卒業論文：①～④の部門の学習を踏まえて、「Life」に関する今日的な課題について、自ら問いを立て、実験・調査などの科学的な手法を用いてデータを収集し、論理的に問いへの解を導いていきます。</p> |
| 教育方法 | <p>① アクティブラーニング：演習科目（基礎ゼミナール、基礎演習、講読、専門演習、社会調査演習など）を中心として、他者との協働によって問題解決に取り組んだり、発表したりする機会を設けています。</p> <p>② 少人数教育：演習科目や卒業論文の個別指導などにおいて、専門的な知識や技能を身につけるために少人数の学習を行っています。また、専門演習や社会調査実習、卒業論文については、その学習成果を報告書や概要集としてまとめたり、発表したりして表現しています。</p> <p>③ ピアインストラクション：演習科目や講義科目において、学生同士が互いの理解を深め合い、他者を尊重する姿勢を育むために、学生同士で学び合うピアインストラクションを活用した教育を提供しています。</p> <p>④ 演習：基礎演習、専門演習、社会調査演習を通して、領域横断的な基礎知識を、より専門的で、現実社会においても活用できる知識・技能に深化させます。社会調査演習では、調査を通して地域状況の把握をするだけでなく、報告書を国立国会図書館に納付し、地域・社会の総合的な発展に寄与する機会をつくっています。</p> |
| 評価 | <p>① 4年間の総括的な学習成果については、卒業論文に対する口述試験を通して担当教員により評価することによって、DPで示された資質・能力の達成状況を評価します。</p> <p>② 卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、学生生活全般に対する調査を実施し、カリキュラムを漸次的に見直します。</p> <p>③ 学科教育については、本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、随時改善します。</p> |

一 アドミッション・ポリシー (AP)

人間科学科は、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

| | |
|----------|--|
| 知識・技能 | ① 人間科学科の教育内容が理解できるように、高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を有している。 |
| 思考・判断・表現 | ② 物事を順序立てて考えることができる。 ③ なじみのないテーマであっても、情報を整理することによって理解し、自ら意見を述べるることができる。 |
| 関心・意欲・態度 | ④ 身近な人たち、異なる文化や価値観を持つ人々の生活や人生に多面的な関心を抱いている。 ⑤ 家族や学校、地域、職場で生じている問題や、文化・環境・メディアなどのあり方に関心を抱いている。 |

■ 臨床心理学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

臨床心理学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、臨床心理学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

| | |
|-----------------|--|
| 知識・技能 | ① 臨床心理学の諸理論と技法の基本と核心を理解している。 ② 心理学諸分野の基本的な研究方法を身につけ、現実社会の中で活用できる。 |
| 思考・判断・表現 | ③ 客観性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方を身につけ、多面的かつ多角的な判断ができる。 ④ 専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身につけ、学習成果や考察を的確に表現し、伝達することができる。 ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。 |
| 関心・意欲・態度 | ⑥ 互いの個性や多様な価値観を尊重しながら他者と協働し、自らの学びや人間関係を構築しようとする姿勢を有している。 ⑦ ⑦臨床心理実践の学びを通して、一般社会人として不可欠な倫理やモラルを心得るとともに、責任ある社会人として行動しようとする態度を身につけている。 |

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

臨床心理学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

| | |
|-------------|--|
| 教育内容 | ① 心理学諸分野及び臨床心理学研究の基礎的な知識と技能を身につけるために、1年次に「基礎部門」の科目を設定しています。 ② 科学的視点と研究論文の書き方を学ぶために、1年次から段階的に研究方法を学ぶ「調査・研究法部門」の科目を設定しています。 ③ 公認心理師をめざす学生が継続的に心理臨床の現場を体験し、これまでに学んだ臨床心理学的な知識や視点、態度について見つけ直す外部実習の選択科目を3・4年次に設定しています。 ④ 心理学及び臨床心理学各領域の知識をさらに深く習得するために、「関連領域部門」科目を設定しています。 ⑤ 基礎的な知識を習得した3・4年次では、卒業論文に向けて思考・判断・表現力のさらなる定着を目指して、全学生が所属する「専門ゼミナール」を配置しています。 ⑥ 公認心理師が働く現場で求められる心理援助のための技法や知識について、さらに深く習得するために、「応用部門」を設定しています。 |
|-------------|--|

| | |
|-------------|--|
| 教育方法 | <p>① ゼミナール形式：基礎ゼミナール、専門ゼミナールなど、少人数で学ぶ科目を配置しており、各自がアクティブに授業に取り組むとともに、学生同士が協力しながら学びを深められるよう、グループでの作業やディスカッションなどを多く取り入れています（ピアインストラクション）。また、個々の学生の習得知識や学習スキルに関して教員が把握しやすく、個別に必要なサポートを提供します。</p> <p>② 体験型、実技習得型：実際に自分たちで心理テストや傾聴技法を体験しながら習得する科目や、学外で現場実習をする科目を設定しており、知識だけではなく、技能や判断、倫理観などの深い理解を目指します。</p> <p>③ 双方向型：大人数の授業では、リアクションペーパーの活用などを通じて、できるだけ双方向型の授業を行い、学生の意見やニーズを反映した授業を展開します。</p> |
| 評価 | <p>① 4年間の学習の総括として、卒業論文への取り組みとその成果に対して、主査・副査を中心とする口頭試問及びグループリク評価を実施し、カリキュラムの評価・改善をはかります。</p> <p>② 毎学期、各授業における学生の情報を交換し、個々の問題に対応するとともに、学科の教育課程の改善をはかります。</p> <p>③ 学科教育については、本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、カリキュラムの改善を行います。</p> |

一 アドミッション・ポリシー（AP）

臨床心理学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

| | |
|-----------------|--|
| 知識・技能 | ① 臨床心理学科の教育内容が理解できるように、高等学校の教育課程において学習した基礎的な知識・技能を修得している。 |
| 思考・判断・表現 | ② 臨床心理学に関連する事象に深い関心を持ち、高等学校までに学んだ知識・経験を踏まえ、自身の興味関心の有り様を、自らの言葉と視点で順序だてて説明することができる。 |
| 関心・意欲・態度 | <p>③ 新たな知識や他者の意見に触れることを喜びと感じ、価値の多様性を理解したうえで、自らの意見を見直す開かれた姿勢をもっている。</p> <p>④ 社会と人間に関する様々な事象を自らの問題として捉え、自身の学びを地域や社会に活かし、他者と共に積極的に解決していこうとする意欲をもっている。</p> |